

挨拶

会長就任にあたって*

北川 能**

*平成 20 年 6 月 11 日 原稿受付

**東京工業大学大学院理工学研究科, 〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1

このたび、当学会の会長に選任されましたが、このような大切な時期に大役を仰せつかり、まことに身が引き締まる思いをしております。

4 つの課題

私たちの日本フルードパワーシステム学会は現在大きな課題を 4 つ持っております。そのひとつは、会員数が 1000 人の大台に達していないということ、そして会員の高年齢化が次第に進む方向にあるということでもあります。中田前会長のご努力によりこの問題は小さくなる方向に進み始めましたが、これからが正念場と心得ており、若い方々が興味を持って入会される学会となるように努力したいと思っております。

二つ目は、学会の財政基盤の強化であります。やはりこれも中田前会長のご努力により収支のバランスが改善される方向に進んでおりますが、今後、充実した学会活動を実施し、大きなプロジェクトを推進していくためにはまだまだ不十分と考えており、さらなる改善をする必要があると考えております。

三つ目は、研究発表活動の活発化であります。例えば学会論文集に掲載された論文数は、一昨年は 24 編、昨年は 14 編であり、年間平均にしますと 20 編程度となっており、まだまだ十分な論文数とは申せません。ここに示しました論文集掲載の論文のみならず講演発表をさらに活発化していく必要があると考えております。

四つ目は、近々始まります公益法人制度改革への対応であります。私個人としては公益法人への移行がもっとも適切ではないかと考えておりますが、新しい制度のもとで公益法人として認定されるには、経理能力、公益事業比率、不特定かつ多数の利益の増進に寄与のようにさまざまなハードルがあり、簡単とはいえません。また時間も 5 年以内と限られております。これらのハードルを慎重に見極め、可能な限り公益法人を目指したいと考えております。

以上のような課題の解決には会員の皆様の叡智を結集することが重要と考えております。さらに、学会外の諸組織との産学共同の研究開発を諸外国に負けず積極的に推し進めることが必要と考えております。幸い日本には日本フルードパワー工業会という強力な企業組織が活発な活動をされて来ましたが、これまで当学会とは直接的な交流があまり多いとは申せませんでした。私は日本フルードパワー工業会との交流の場をなるべく数多く設け、両者の交流・協力ができる限り進むようにして参りたいと思っております。皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

著者紹介



きたがわ あとう
北川 能 君

東京工業大学大学院理工学研究科機械制御システム専攻教授、流体制御、流体駆動ロボット、生体協調流体システム等の研究に従事。工学博士。

E-mail : kitagawa@cm.ctrl.titech.ac.jp